

令和2年度 第4回幼稚園等初任者研修報告

9月8日、静岡県総合教育センターを会場に初任者研修会が開催されました。本年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、第1回から3回までの初任者研修は紙面での開催でしたので、静岡県の公立幼稚園等の初任者が一堂に会したのは今回が初めてでした。

円滑な関係を構築するためのコミュニケーションの取り方や、幼児教育における特別支援教育の在り方、人権教育について理解することを目標に行われました。

講義や演習を通し、実践的指導力を高めるとともに、初任者同士の交流が図られ、保育や人間関係の悩み、今後の展望などを共有する機会ともなりました。



【講義】 「人権教育について」 ～想像しよう共感しよう～



人権教育室長 西島 真美 氏

(研修生の声)

- 子供の人権感覚や自己肯定感を高めるためには、まず教師がモデルとなり、人権を尊重する雰囲気の中で生活することが大切であると分かりました。
- 「ひび割れ壺」のお話が心に残りました。ひび割れを責めるのではなく花の種をまき育てることが保育者の役割であると気付きました。一人一人のよさを見つけ伸ばす援助ができる保育者になりたいと思います。
- 毎日失敗ばかりで保育者に向いていないのではないかと思うことがありましたが、ひび割れ壺の話聞き、失敗を次に生かす経験にしていきたいと考えました。

【講義】 「円滑な関係を構築するためのコミュニケーション」

(研修生の声)

- 初めはよいと感じていた先輩との人間関係でしたが、次第に難しくなり困っていました。アサーションに心掛け適切な方法で表現していきたいと思います。
- 私と同じストレスや悩みを持っている初任者がいて気持ちが楽になりました。具体的な例をあげアサーションのポイントを教えていただいたので、それを早速生かしていきたいと思いました。
- グラフや調査結果を基に話をしていただき、とても分かりやすく学ぶことができました。社会的スキルを伸ばし先輩や保護者とのコミュニケーションに役立てたいです。



静岡文化芸術大学 高木 邦子 教授

【講義・演習】 「幼稚園・認定こども園における特別支援教育の在り方」

～ユニバーサルデザインの視点を生かした環境の構成・個別の支援計画作成に向けて～



総合教育センター 高橋 昭 氏

(研修生の声)

- ・ 具体的に困り感を抱いている子供の見方や捉え方を知ることができ、どのような関わりをすればよいか考える機会となりました。
- ・ これまではどうしても個別の支援が必要な子供ばかりに目がいきがちでしたが、特別支援教育は、障害の有無を問わず全ての子供が生活しやすいものであると捉え直しました。教師自身が認め合い、その子のよさを理解し援助することに努めていきたいです。
- ・ グループのメンバーと話をすることで、一人では思いつかなかった視点や新たな手立てを知ることができ、参考となりました。

